



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2024/06/18
SDS整理番号 13380232

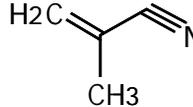
製品等のコード : 1338-0232、1338-0250

製品等の名称 : メタクリロニトリル

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
樹脂合成、合成中間体、SBRラテックス(紙コーティング用)原料
塩化ビニリデン共重合樹脂合成原料 など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体 : 区分2
自己反応性化学品 : 区分に該当しない
自然発火性液体 : 区分に該当しない
金属腐食性化学品 : 区分に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 区分3
急性毒性(経皮) : 区分3
急性毒性(吸入:蒸気) : 区分2
皮膚腐食性/刺激性 : 区分に該当しない【区分3(国連GHS分類)】
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2B
生殖毒性 : 区分2
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分1(中枢神経系)
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分1(中枢神経系)、
区分2(血液系、鼻腔(嗅上皮)、肝臓)

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性) : 区分3

注意喚起語：危険

危険有害性情報

引火性の高い液体及び蒸気
飲み込むと有毒(経口)
皮膚に接触すると有毒(経皮)
吸入すると生命に危険(蒸気)
軽度の皮膚刺激
眼刺激
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
中枢神経系の障害
長期又は反復ばく露による血液、中枢神経系、感覚器の障害

長期又は反復ばく露による血液系、鼻腔（嗅上皮）、肝臓の障害のおそれ水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地すること、アースをとること。
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器などを使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
ミスト、蒸気などを吸入しないこと。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面、呼吸用保護具を着用すること。
環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。直ちに医師に連絡すること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師に連絡すること。
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
皮膚を多量の水と石鹸で洗うこと。
眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	：	化学物質
化学名	：	メタクリロニトリル （別名）2-メチルアクリロニトリル、2-メチルプロペンニトリル、 2-メチレンプロピオニトリル、イソプロペニルシアニド、 2-メチル-2-プロペンニトリル、 2-シアノプロペン-1、-メチルアクリロニトリル イソプロペンシアニド、イソプロペニルニトリル （英名）Methacrylonitrile (EC名称)、 2-Methylacrylonitrile、 2-Methylpropennitrile、2-Methylenepropionitrile、 Isopropenyl cyanide、2-Methyl-2-propenenitrile、 2-Cyanopropene-1、-Methylacrylonitrile、 Isopropene cyanide、Isopropenyl nitrile、 2-Propenenitrile、2-methyl- (TSCA名称)
成分及び含有量	：	メタクリロニトリル、99.0%以上
安定化のための添加物	：	重合防止剤として、ヒドロキノンモノメチルエーテルを約50ppm含有する。
化学式、構造式	：	C ₄ H ₅ N、CH ₂ :C(CH ₃)CN、構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	：	67.09
官報公示整理番号	：	(2)-1514
化審法	：	公表化学物質（化審法番号を準用）
安衛法	：	
CAS No.	：	126-98-7
EC No.	：	204-817-5
危険有害成分	：	メタクリロニトリル

4. 応急措置

吸入した場合：直ちに医師に連絡する。
直ちに、被災者を新鮮な空気のある場所に移す。

- 被災者を毛布等でおおって体を保温し、呼吸しやすい姿勢で安静にする。
速やかに医師の診断、治療を受ける。
気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。
速やかに、皮膚を多量の水と石鹼で洗い、医師の診察を受ける。
皮膚刺激などが生じた時または気分が悪い時は医師の手当を受ける。
汚染された作業衣は作業場から出さない。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
- 目に入った場合 : 直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗淨すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。
まぶたを親指と人さし指で掘り眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗淨する。
次に、コンタクトレンズを着用して固着していなければ除去し、洗淨を続ける。
眼の洗淨が遅れたり、不十分の場合は、眼の障害のおそれがある。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡する。
速やかに、口をすすぎ、うがいをする。
大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。
けいれんや意識混濁がある時又は意識がもうろうとしている時には吐かせてはいけない(窒息させたり、吐いた物が気管に入って肺炎になることがあるため)。
意識がない時は、何も与えない。
嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないように、頭を尻より下に身体を傾斜させ、肺への還流を防ぐ。嘔吐後、再び水を飲ませる。
保温に努め、速やかに医師の診断、治療を受ける。
気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
- 予想される急性症状及び遅発性症状 :
吸入 : 頭痛、錯乱、脱力感、息切れ、痙攣、意識喪失
皮膚 : 刺激、発赤。経皮吸収性がある。
眼 : 発赤、痛み
経口摂取 : 頭痛、錯乱、脱力感、息切れ、痙攣、意識喪失
- 応急措置をする者の保護 : 救助者は、状況に応じて有機ガス用防毒マスクを着用する。
医師に対する特別な注意事項 : 安静と症状の医学的な経過観察が必要。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 本製品は可燃性、引火性であり、非常に燃焼しやすい。
粉末、二酸化炭素、泡(耐アルコール泡)、水噴霧
大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
- 使ってはならない消火剤 : 棒状放水(本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある。)
特有の危険有害性 : 引火性が極めて高い。
非常に燃え易いので、熱、火花、火炎で容易に発火する。
引火点(1.1)以上では蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。
本製品の蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがあり、屋内、屋外、下水溝などでの遠距離引火の可能性がある。
火災に巻き込まれると、爆発的に重合するおそれがある。
加熱あるいは水の混入により容器が爆発するおそれがある。
火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を遮断する。
火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
大火災の場合、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。これが不可能な場合には、その場所から避難し、燃焼させておく。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。
皮膚、眼など身体とのあらゆる接触を避ける。
蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。

環境に対する注意事項	: 河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。
回収、中和	: 乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
	: 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて密閉できる空容器に回収する。
	: 大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。
封じ込め及び浄化の方法・機材	: 危険でなければ漏れを止める。
	: 漏洩エリア内で稼働させる設備・機器類は接地する。
二次災害の防止策	: 蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。
	: 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
	: 周辺の発火源を速やかに取除く。
	: 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 裸火禁止、火花禁止、禁煙。強力な酸化剤との接触禁止。
	: 引火点(1.1)以上で使用する場合は、工程の密閉化および防爆型換気装置を使用する。
	: ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
	: 指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。
	: 指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が必要で、危険物貯蔵所に保管する。
	: 指定数量の1/5以上、1未満(少量危険物)の場合も、少量危険物貯蔵所に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。
	: 指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取扱いについては届出の必要はない。
	: 炎、火花または高温体との接触を避ける。
	: 静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。
	: 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
局所排気・全体換気	: 防爆型の換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
安全取扱い注意事項	: すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
	: 屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。
	: 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
	: 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
	: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
	: 取扱い後はよく手を洗う。
	: ミスト、蒸気、スプレーを吸入しない。
	: 眼に入れない。
接触回避	: 接触、吸入又は飲み込まない。
保管	: 炎、火花または高温体との接触を避ける。
技術的対策	: 保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。
	: 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。
	: 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。
	: 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
保管条件	: 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管する。禁煙。
	: 光のはく露や高温多湿を避けて保管する。
	: 容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。
	: 一定の場所を定めて、施錠して保管する。
	: 貯蔵する所には、「火気厳禁」の表示を行う。
	: 貯蔵する所には、白地に赤枠、赤文字で「医薬用外劇物」の表示を行う。
混触危険物質	: 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
容器包装材料	: 強酸化剤、強アルカリ、強酸、強還元剤
	: ガラスなど。
	: アクリル樹脂など多くのプラスチック、ゴムを侵す。

<参考> 室温での容器包装材料の耐薬品性(あくまでも目安、保証不可、実用試験確認必要)

本品のデータなし。

類似化合物のアクリロニトリル(CG3CH2CN、CAS No.107-13-1)のデータを示す。

【 :良好 :やや良好(条件による) :やや不良 x:不良 -:データなし 】

スチレンゴム× クロロブレンゴム(ネオプレン) ニトリルゴム× ブチルゴム
 天然ゴム シリコンゴム・ フッ素ゴム(バイトン、ダイエル)× テフロン
 軟鋼 ステンレス(SUS304 SUS316) チタン アルミニウム 銅
 軟質塩ビ× 硬質塩ビ ポリスチレン× ABS ポリエチレン ポリプロピレン
 ナイロン- アセタール樹脂- アクリル樹脂× ポリカーボネート- ガラス

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない。
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標):	
日本産衛学会	設定されていない。
ACGIH	TLV-TWA 1ppm 経皮吸収あり
設備対策	: 防爆の電気・照明機器を使用する。 作業場には防ばく型の換気装置を設置し局所排気又は全体換気を行なう。 静電気放電に対する予防措置を講ずる。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	: 呼吸器保護具(有機ガス用防毒マスク)を着用する。
手の保護具	: 保護手袋(ネオプレン製、シリコン製、ポリウレタン製など)を着用する。
眼の保護具	: 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用する。
皮膚及び身体の保護具	: 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱後はよく手を洗う。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	
性状	: 液体
色	: 無色～淡黄色
臭い	: 特異臭
pH	: データなし
融点	: -36
凝固点	: データなし
沸点	: 90
引火点	: 1.1 (密閉式)
可燃性	: 引火性
爆発範囲	: 下限 2vol% 上限 6.8vol%
蒸気圧	: 8.66 kPa(25)
相対ガス密度(空気=1)	: 2.3
20 での蒸気/空気混合	
気体の相対密度(空気=1)	: 1.17
密度又は相対密度	: 0.798～0.803 g/cm ³ (20)
比重	: データなし
溶解度	: 水にやや混和する(2.5g/100mL、25)。 エタノール、アセトン、オクタン、トルエンに混和する(20-25)。
オクタノール/水分配係数	: log Pow = 0.68
発火点	: データなし
分解温度	: データなし
粘度	: 0.392mPa・s(20)
動粘度	: データなし
粒子特性	: データなし

GHS分類

引火性液体	: 引火点1.1(密閉式)は < 23 であり、かつ沸点90 は > 35 であることから、区分2とした。 引火性の高い液体および蒸気(区分2)
自己反応性化学品	: 国連危険物輸送勧告(UNRTDG)がクラス3(副次危険6.1)に分類されていることから、区分に該当しないとした。
自然発火性液体	: 国連危険物輸送勧告(UNRTDG)がクラス3(副次危険6.1)に分類されていることから、区分に該当しないとした。
金属腐食性化学品	: 国連危険物輸送勧告(UNRTDG)がクラス3(副次危険6.1)に分類されていることから、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

安定性（反応性・化学的安定性）

- 通常：通常の取扱条件において安定である。
- 危険有害反応可能性：加熱すると激しく重合し、火災や爆発の危険を伴う。
加熱により発火する。
燃焼すると、有毒で腐食性のヒューム(シアン化物、窒素酸化物など)を生成する。
強酸化剤(過塩素酸Na、過酸化水素、硝酸NH₄、硝酸Na等)と混触すると激しく反応する。
強酸、強アルカリ、強還元剤と反応する。
- 避けるべき条件：熱、日光、光、裸火、スパーク、静電気
- 混触危険物質：強酸化剤、強アルカリ、強酸、強還元剤
- 危険有害な分解生成物：シアン化物、窒素酸化物、一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

- 急性毒性：経口 ラット LD50 = 58.3mg/kg
飲み込むと有毒（経口）（区分3）
経皮 ウサギ LD50 = 250 mg/kg
皮膚に接触すると有毒（経皮）（区分3）
吸入（蒸気） ラット LC50 = 0.899 mg/l (328 ppm相当)
吸入すると生命に危険（蒸気）（区分2）
吸入（ミスト）分類できない。
- 皮膚腐食性/刺激性：ウサギでのドレイズテストで軽度の皮膚刺激性を示す（SIDS, 2002）との記述、およびヒトへの反復または長期の皮膚接触により皮膚炎を起こすことがある（環境省リスク評価第3巻, 2004）との記述から、軽度の刺激性があると判断し、区分3とした（国連GHS分類）。
ただし、分類JISでは区分に該当しないである。
軽度の皮膚刺激（区分3）
- 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：ウサギの眼に対して軽度な刺激性を示すが1時間以内に回復する（ACGIH 7th, 2001）との記述に基づいて、区分2Bとした。
眼刺激（区分2B）
- 呼吸器感作性：分類できない。
- 皮膚感作性：分類できない。
- 生殖細胞変異原性：区分に該当しない。
- 発がん性：区分に該当しない。
ラットおよびマウスの骨髄細胞またはマウス末梢赤血球を用いたin vivoの小核試験でいずれも陰性であった（SIDS 2002, NTP DB 2005, NTP TR 497, 2001）。
- 生殖毒性：2世代繁殖試験でF1世代の雄の精子数の有意な減少、あるいは13週間の投与終了後の雌に性周期の遅延（いずれもラットに経口投与、SIDS 2002, NTP DB 2005, 環境省リスク評価第3巻 2004, NTP TR 497 2001）、および催奇形性試験で新生仔で1腹あたりの雄の比率の低下（ウサギに経口投与、SIDS 2002, CER1ハザードデータ集 2001）、胎仔体重の低下（ラットに吸入暴露、SIDS 2002, CER1ハザードデータ集 2001, NTP TR 497 2001）が見られ、いずれも区分1Bに該当すると考えられた。
しかし、この（3省GHS分類根拠となった）2世代繁殖試験で、F1世代の雄の精子数の有意な減少やメスの性周期の遅延について、元文献を精査した結果、認められた生殖毒性影響はいずれも軽度である。
従って、ヒトに対する影響がありとして、「区分1B」に分類するよりも「区分2」に分類するほうが適切であると考えられたので、区分2とした。
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い（区分2）
- 特定標的臓器毒性（単回ばく露）：ラットに経口投与すると区分1のガイダンス値範囲（300 mg/kg以下）で、運動失調、振戦、間代性痙攣、流涎等の中樞神経系の症状が見られ（NTP TR 497 2001, 厚労省報告 2005, SIDS 2002, ACGIH 7th, 2001）、ラットに吸入させた場合も約1～2 mg/lの気中濃度で同様の症状が見られたことから、区分1（中樞神経系）とした。
中樞神経系の障害（区分1）
- 特定標的臓器毒性（反復ばく露）：ラットへの反復経口投与により貧血、間代性痙攣、振戦、流涎、運動失調等の症状、嗅上皮の組織学的変化が区分1の用量範囲で認められ（厚労省報告 2005, SIDS 2002, 環境省リスク評価第3巻 2004, NTP DB 2005, NTP TR 497 2001）、標的臓器は血液、中樞神経系および感覚器と判断された。イヌに吸入させたときにもこれらの中樞神経系の症状が見られ、脳の組織学的変化も見られた（SIDS 2002, ACGIH 7th, 2001）。

IRIS 2005, 環境省リスク評価第3巻 2004)。
 しかし、パブリックコメントでは、認められた神経毒性は急性毒性であり慢性毒性ではないと指摘している。しかし、Pozzaniらの文献(1968)に記載のイヌの90日間経口投与毒性試験では、「区分1」のガイダンス値範囲内(13.5 ppm群)で、強直性痙攣、速脈、多呼吸、後肢の制御不能が、暴露後すぐには認められず、暴露39日目以降に認められている。
 よって、当試験の中枢神経症状は反復ばく露による影響であると言える。
 また、パブリックコメントでは、神経毒性以外の毒性に関しては分類基準に当てはまる影響はない、と指摘している。しかし、厚労省報告(2005)に記載のラットの反復経口投与毒性試験では、「区分2」のガイダンス値範囲内(30 mg/kg群)で、溶血性貧血に関連する影響が有意に認められている。
 また、NTP TOX 47(2000)に記載のラットの13週間経口投与毒性試験では、「区分2」のガイダンス値範囲内(60 mg/kg/day以上の群)で、嗅上皮の化生、壊死の発生率の有意な増加が認められている。また、NTP TR 497(2001)に記載のラットの2年間経口投与毒性試験では、「区分2」のガイダンス値範囲内(30 mg/kg/day群)で、鼻の嗅上皮の萎縮及び化生の発生率の増加、肝臓における細胞質空胞化の増加が認められている。
 よって、「区分2(血液系、鼻腔(嗅上皮)、肝臓)」とするのが妥当であると考えられた。
 長期又は反復ばく露による中枢神経系の障害(区分1)
 長期又は反復ばく露による血液系、鼻腔(嗅上皮)、肝臓の障害のおそれ(区分2)

誤えん有害性 : 分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性) : 藻類(セテナストラム) 72時間ErC50=25mg/L
 水生生物に有害(区分3)

水生環境有害性 長期(慢性) : 区分に該当しない。
 急速分解性があり(BODによる分解度: 83%(既存化学物質安全性点検データ))、かつ生物蓄積性が低いと推定される(Log Kow=0.68(PHYSPROP Database, 2005))ことから、区分に該当しないとした。

残留性・分解性 : 良分解性。BOD分解度 = 83%

生物蓄積性 : 低濃縮性。Log Kow = 0.68

土壌中の移動性 : データなし

オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
 都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。
 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
 必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
 (参考)(1)燃焼法
 可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉(おが屑)等に吸収させて、アフターバーナー及びスクラバー付き焼却炉の火室で焼却する。
 (2)活性汚泥法
 生分解性があるので、活性汚泥処理が可能である。
 汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 131P (P: 熱や不純物により爆発的に重合を起こす)

国際規制

海上規制情報 (IMDGコード/IMOの規定に従う)

UN No. : 3079

Proper Shipping Name : METHACRYLONITRILE, STABILIZED

Class	: 6.1 (毒物)
Sub Risk	: 3 (引火性液体)
Packing Group	: I
Marine Pollutant	: No (非該当)
Limited Quantity	: -
航空規制情報 (ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う)	: Forbidden (積載禁止)
国内規制	
陸上規制情報 (消防法、毒劇法、道路法の規定に従う)	
海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)	
国連番号	: 3079
品名	: メタクリロニトリル (安定剤入りのもの)
クラス	: 6.1
副次危険	: 3
容器等級	: I
海洋汚染物質	: 非該当
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類	: Y (メタクリロニトリル)
少量危険物許容量	: -
航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)	: 積載禁止
特別の安全対策	: 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載する。 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。 危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報する。 重量物を上積みしない。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 車輛等による運搬の際にはイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

労働安全衛生法	: 危険物・引火性の物 (施行令別表第1第4号) 皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質「皮膚吸収性有害物質」 「メタクリロニトリル、対象重量%は 1」 (安衛則第594条の2)
	名称等を表示すべき危険物及び有害物 (政令番号 第558号「メタクリロニトリル」、 対象重量%は 0.3)
	名称等を通知すべき危険物及び有害物 (政令番号 第558号「メタクリロニトリル」、 対象重量%は 0.1) (令別表第9)
	ただし、令和7年4月1日から、 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (政令番号 第1999号「メタクリロニトリル」、 対象重量%は 1)
	名称等を通知すべき危険物及び有害物 (政令番号 第1999号「メタクリロニトリル」、 対象重量%は 0.1) (規則別表第2)
化審法	: 旧第2種監視化学物質 No.1058 (官報公示日: 2010/04/01)
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	: 非該当 (2023年 (R5年) 4月1日施行の法改正にも非該当)
消防法	: 危険物第4類引火性液体、第一石油類 非水溶性液体 指定数量200L 危険等級 (法第2条第7項危険物別表第1)
毒劇法	: 劇物「有機シアン化合物」(指定令第2条第32号)、包装等級
船舶安全法	: 毒物類・毒物 (危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
航空法	: 積載禁止
海洋汚染防止法	: 有害液体物質 Y類物質「メタクリロニトリル」(施行令別表第1)
水質汚濁防止法	: 有害物質 (施行令第2条) 「シアン化合物」
土壌汚染対策法	: 第2種特定有害物質 (政令第1条第5号) 「シアン化合物」 [溶出量基準値] 不検出 (CN) [含有量基準値] 50mg/kg (CN-)

輸出貿易管理令 : キャッチオール規制（別表第1の16項）
 HSコード：2926.90
 第29類 有機化学品
 ・輸出統計番号（2024年1月版）：2926.90-000
 「ニトリル官能化合物
 - その他のもの」
 ・輸入統計番号（2024年4月1日版）：2926.90-000
 「ニトリル官能化合物
 - その他のもの」

16. その他の情報

（注）本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

取扱注意事項：

本製品の取扱いは毒物劇物取締法の規定に従い、購入、保管、使用及び廃棄には細心の注意を払うこと。毒物劇物取扱等の責任者は、必要に応じ取扱う者に対し労働安全衛生、漏洩防止、緊急時の対応、環境影響、使用記録、保管庫施設、紛失盗難防止などについて教育、訓練を実施し、事故の予防に努めること。

参考文献：

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。